

---

# だんごと恋心 (CLANNAD)

如月奏

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

だんごと恋心 (CLANNAD)

### 【Nコード】

N3441BA

### 【作者名】

如月奏

### 【あらすじ】

焼きだんこのやっくんのちいさな恋。

昔々、あるところに焼きだんごくんがいました。こんがりと焼けた類がチャームポイントの彼の名前はやっくん。彼はちよっぴりやんちゃで、イタズラ好きでした。

そんなやっくんが、お母さんだんごにお願いされて、隣町までお遣いに行った日のことです。空が急に薄暗くなって、雨が降り出してしまいました。このまま帰宅しても、びしょ濡れになってしまいます。そう思つて、しばらく通りかかった家の屋根の下で雨宿りをすることにしました。

でも、雨は一向に止む気配がありません。やっくんは仕方なく、濡れて帰ろうとしました。その時です。家の中から出てきたあんだんごちゃんが彼を呼び止めます。

「もしかして、傘を持っていないの？」

だんごたちの言う傘は、柏餅を作る時に使う柏の葉みたいなものです。

「えっと……そ、そうなんだ」

やっくんはためらいながらも正直に答えました。すると、あんだんごちゃんはにっこり笑つて、家の中に戻ると、一枚の葉っぱを取つて来ました。

「使つていいよ」

「え……いい、いいの？」

やっくんはびっくりして聞きました。すると、あんだんごちゃんはまたにっこり笑います。

「うん。困っていたんでしょ」

「それは……そうだけど……でも……それは君の……」

やっくんが言う前に、あんだんごちゃんは葉っぱを彼の頭の上に載せました。

「困った時はお互い様。だから使つて。そのかわり……」

やっくんはあんだんごちゃんの瞳を見つめます。

「もし君がどこかで困っているんだんごと出会ったら、そのだんごを助けてあげてね」

あんだんごちゃんはそう言うと、やっくんの返事も聞かずに、家の中に戻って行ってしまいました。やっくんはしばらくその家の戸を見つめていましたが、やがてぴよんぴよんと跳ねて

「必ず返すからなー！」

と叫ぶのでした。それから、やっくんはまた自分の家を目指して跳ね始めました。雨はしとしとと傘の葉っぱの上に落ちてきます。でも、やっくんはその傘のお陰で濡れずに済みました。

その翌日のことです。カラッと晴れた夏の日、やっくんはまたお母さんだんごにお願いされて、町までお遣いに来ていたのですが、道端で重そうな荷物を頭に載せながら跳ねているおばあさんだんごと出会いました。中に何が入っているのかは分かりませんが、すごく大切そうです。

やっくんは、昨日あんだんごちゃんに言われたことを思い出して、おばあさんだんごのそばに跳ね寄りしました。

「ぼくが持つよ」

「おお、本当かい？　ありがとう」

おばあさんだんごは、嬉しそうな表情を浮かべ、やっくんに荷物を渡します。やっくんは、それを頭の上に載せると、また跳ね始めました。おばあさんだんごは

「そのまままっすぐだよ」

と言いながら道案内してくれます。しばらくして、目的地に到着したようです。

「ここだよ。どうもありがとうね」

「あ……」

やっくんは辿り着いた場所を知っていました。そこは、昨日あんだんごちゃんと出会った家の前だったのです。

「あんちゃん、今帰ったよ」

おばあさんだんごがそう言って戸を開けると、中からあんだんごちゃんが出てきました。

「あ、君は昨日の……」

やっくんを見つけてあんちゃんは目を丸くしました。しかし、何かに気づいたのか、すぐに優しい目に戻り、こう言いました。

「もしかして、おばあちゃんを手伝ってくれたの？」

「そうだよ」

やっくんが答えるよりも先に、おばあさんだんごが答えています。

「そうだったんだ。ありがとう！」

あんだんごちゃんは嬉しそうに笑っています。やっくんは普段滅多に見せないような照れ顔を見せていました。

「あ……そうだ……これ、返すよ」

やっくんは話題を逸らすかのように、昨日あんだんごちゃんに貸してもらった傘をあんだんごちゃんの頭に載せました。

「もしかして、わざわざ返しに来てくれたの？」

「えっと……そうかも……な……」

「君は素敵なだんごさんね」

「そ、そうかな……」

やっくんはイタズラ好きなので、「元気なだんごさん」と言われることはよくあったのですが、こんな形で褒められたことは少なかったのです。それだけに、やっくんはいつになく動揺していました。「今日はわたしの誕生日なんだよ。もしよかったら、一緒にケーキ食べていかない？」

「え、えっと……いや、いいよ。また今度な！」

「あ、う、うん。またね」

やっくんは後ろも見ずに、そのまま跳ねていきました。やっくんには、自分がどうしてこんなにも動揺しているのか、よくわかりませんでした。でも、なぜかあんだんごちゃんの前にいるのが少し気

恥ずかしかったのは確かのようにでした。やっくんがこの気持ちに気づくには、もう少しだけ時間が必要みたいです。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3441ba/>

---

だんごと恋心（CLANNAD）

2012年1月8日23時52分発行